国語科　学習指導案

府立北かわち皐が丘高等学校

１．日　時　　令和元年６月 26 日（水）第４時限（11 時 45 分～12 時 35 分）

２．場　所　　第１学年６組 HR 教室

３．学年・組・教科（科目）　　第１学年６組（40 名）・国語総合（現代文分野）

４．単元（題材）名　　「よく飛ぶ紙ヒコーキの折り方」（表現）

５．単元（題材）の目標

・書いた文章について、自己評価や相互評価を行って、自分の表現に役立てようとしている。
（関心・意欲・態度）

・書いた文章について、自己評価や相互評価を通して見直し、効果的な書き方を理解して自分の表現に役立てる。（書く能力）

・文章の組み立てや、比喩表現などの表現技法について、その効果を理解することができる。
（知識・理解）

６．生徒観

（略）

７．指導観

「紙ヒコーキ」という身近な題材を使って、自分の考えている「紙ヒコーキ」を説明することを通して、どれだけ他者に正確に伝わっているのか、視覚的に実感させたい。その上で、どのような表現（書き方）が効果的なのかを自ら気付き、生かせるように促していく。

８．単元（題材）の評価規準

a　関心・意欲・態度	*c*　書く能力	*e*　知識・理解
①　文章の記述について自己評価や相互評価しようとしている。 ②　的確な表現を自分の文章に取り入れようとしている。	①　自分の考えを相手に文章で説明することができる。 ②　相手がどう受け取るのかを意識して、文章を工夫して書くことができる。	文章の組立てや比喩表現などの表現技法について、その効果を理解することができる。

９．単元の指導と評価の計画（全３時間）

*○必要に応じて評価する　（指導に生かす評価）
◎全生徒を評価する　（記録に残す評価）

時	学習内容	評価の観点*					主な評価規準・評価方法
		a	*b*	*c*	*d*	*e*	
第１時	・文章を書くときに気をつけていることやわかりやすい文章に必要な要素について話し合い、共有する。 ・目標を意識しながら、紙ヒコーキの折り方について箇条書きで説明する。	○		◎			【a、c①】自分なりに読み手に伝わるように工夫して文章を書いている。 （観察・記述の点検）
第２時 **本時**	・代表生徒４人が書いた文章を見ながら、紙ヒコーキを実際に折る。 ・４人の文章を相互評価し、自分の書いた文章を自己評価し、効果的な表現や改善すべき点に気付く。	○		○		◎	【ａ①、ｃ①】代表の４つの文章について、相互評価しながら、自分の書いた文章を自己評価しようとしている。 （観察） 【e】読み手に誤解なく説明するために効果的な説明の仕方や表現技法について理解している。（記述の点検）
第３時	・前回の発表や効果的な表現の学習を踏まえ、もう一度同じ題で書き直しを行う。	○		◎		◎	【a②】説明の順序や効果的な表現技法を取り入れて、文章を書こうとしている。 （記述の点検） 【c②】今までの自分の文章と比べて、より読み手を意識した文章になるよう工夫している。（記述の点検） 【e】読み手に誤解なく説明するために効果的な説明の仕方や表現技法について理解している。（記述の点検）

10．本時の展開

(1) 本時の目標

・相手に誤解なく伝えるために、必要な説明の順序や効果的な表現技法を理解する。
・発表された文章や自分の書いた文章を、相互評価、自己評価することができる。

(2) 本時の学習過程

時間	学習内容・学習活動	指導上の留意点	評価規準（評価方法）
５分 導 入	・前時の復習 ・本時の目標を確認する。	・前回自分が書いた文章を返却する。 ※授業の目標を意識させる。 「相手に誤解なく伝えるためには何が必要か実感しよう」	
40分 展 開	・代表生徒４人の説明を抜粋したプリントと折り紙を全員に配付する。	・①～④のプリントを配付する。 ・折り紙を準備し、①～④の順にプリントの説明に従って全員でその手順に沿って折り紙を折らせる。	

	・代表生徒が、自分で書いたものを手順に従って説明する。 ※プリント①～④の説明は一つずつ行い、そのたびに誤解なく伝わっているか、確認しながら進める。 誤解があったものは、実際はどう表現することが適切かを訂正しながら進める。 ・代表生徒の発表から、なぜ誤解されたのか、なぜうまく伝わったのかを話し合う。　（随時発表）	※プリントについて ①：例えば「半分に折る」という説明では三角形・長方形など様々な解釈ができるような説明になっている。どうすれば統一された形に折らせることができるか、表現方法を考える。 ②、③：表現が一部の人にしか分からなかったり、複雑過ぎたりして、かえって分かりにくい書き方をしている。どうすればわかりやすくなるか、説明の仕方を意識させる。 ④：手本にしてもらいたい表現がされている。目的語が明確に書かれていたり、折る手順や指示が丁寧に書かれている説明が読み手に誤解なく伝えるための必要な要素であることに気付かせる。 ※いろいろな解釈ができる文章に関しては、できるだけその解釈の可能性を表現できるように授業の雰囲気や環境づくりに配慮する。	・誤解された文章について、なぜ誤解につながったのかを考えようとしている。 （観察） ・複雑すぎたり、独創的すぎたりする例えなどは、かえって相手に伝わらないことを理解している。 （観察） ・たとえば「長方形になるように折る」や「家のような形」など、比喩の効果や説明の仕方など、誤解なく伝えるために必要なことを理解している。 （記述の点検）
５分 まとめ	・自分の文章を見直し、足りなかったところを考える。	・足りない箇所を次の時間で書き直すように指示する。	・自分の書いた文章を見直し、自己評価をする。